別紙

岐阜農林事務所の普及活動状況　令和５年８月 28 日現在

今月の重点活動

■だいこん　環境保全型農業の推進支援

【研修会の様子】

則武、鷺山、島、合渡地区を中心とする岐阜市のだいこん生産は、化学肥料並びに化学合成農薬使用を削減した環境保全型農業である「ぎふクリーン農業」に長年取り組んでいるが、「ぎふクリーン農業」の表示制度が令和５年度末に終了となることから、新たな環境保全型農業の取り組みに対する生産者の関心が高まっている。

農林事務所は、だいこん生産における農薬防除回数の上限と施肥窒素成分量の上限を考慮した上で、環境保全型農業を進めていく方針の元、新たな農薬削減の指標として、「農薬のリスク換算値」の考え方を導入し、令和５年度だいこん栽培暦の作成を進めることとした。

７月 14 日に則武鷺山園芸振興会、７月 31 日に島園芸振興会大根部会、８月 18 日に合渡園芸振興会が研修会を開催し、農林事務所は「農薬のリスク換算値の概念」と「リスク換算値で評価済みの新しい防除体系」について説明を行った。出席者は熱心に聞いたりメモを取るなど、農薬使用や施肥に対する関心の高さがうかがえた。また、農林事務所は肥料高騰下で望ましい土壌管理とするための土壌診断に基づく適正施肥についても呼びかけを行った。

（園芸産地支援第一係）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー　ＧＬＡＭＡいきいきネットワーク岐阜ブロック研修会を開催

【 研修会の様子 】

岐阜県は、農業経営に自ら参画し、地域活性化などに貢献する女性農業者を「女性農業経営アドバイザー(通称 GLAMA)」に認定している。GLAMA 会員は自らの資質向上のため、先進地視察や研修会等の組織活動を実施しており、農林事務所は組織活動の円滑化に向けた支援を行っている。

岐阜管内 GLAMA で組織する GLAMA いきいきネットワーク岐阜ブロックは８月４日、社会保険労務士を講師に迎え、「労務・人材管理」をテーマに研修会を開催した。会員には雇用労働者を抱える者も多く、労働関連法令等が強化される近年、その対応が益々重要となることから、就業や労務環境の改善を進めるための学習機会となった。講義後の質疑応答では、会員から雇用契約や社会保険制度等に関して質問が多数出されるなど、労務管理見直しに対する関心の高さがうかがえた。

農林事務所は組織活動の活性化を通じて、引き続き女性農業経営アドバイザーが取り組む経営改善を支援する。

（園芸産地支援第一係）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■羽島市水稲種子採種組合　現地研修会・抜き穂作業を開催

羽島市水稲種子採種組合は、水稲「ハツシモ岐阜 SL」の種子生産を行っており、15 名の組合員により 7.5ha が栽培管理されている。同組合は、８月９日及び 10 日に現地研修会を、８月 23 日及び 25 日に出穂期前の抜き穂作業を、小熊・足近・桑原の３地区で開催した。

栽培研修会では、組合員全員の種子生産ほ場の巡回を行った。農林事務所は葉色や生育の進み具合を確認するとともに、生育状況に応じた栽培の注意点や穂肥の施用時期、今後の病害虫防除等について指導を行った。

また、出穂期前の抜き穂作業は「出穂期ほ場審査の予備審査」と位置付け、組合員及び関係機関とともに、早く出穂した稲株や異形の稲株などの除去作業を行った。

９月には出穂期ほ場審査が予定されており、農林事務所は県内の生産者が安心して使用できる高品質な水稲種子生産に向けた取り組みを引き続き支援していく。

【抜き穂作業の様子】

（地域支援第二係）

■いちご　グリーンな栽培体系への転換サポート令和５年度事業説明会

岐阜地域のいちご産地では令和４年度から天敵や寒冷紗設置によるアザミウマ類、コナジラミ類等の微小害虫の防除等、環境負荷低減と省力化の検証、当地域に適した技術の普及を図ることを目的に、グリーンな栽培体系への転換サポート実証事業(国補)を活用した取り組みを開始している。

令和４年度は11名の生産者が現地実証試験を行った。令和５年度からは17名が現地実証試験に取り組む予定で、事業開始に向けた説明会が８月22日にＪＡぎふ黒野流通センターにおいて開催された。

【説明会の様子】

農林事務所は、令和４年度の調査結果と微小害虫の生物的・物理的防除を成功させるポイント等について説明した。また、令和５年度に取り組んでもらう内容や調査手法等についても説明を行った。

令和４年度の現地実証試験を受け、実害が出ない程度に害虫密度を抑制するためには、定期的な発生予察や観察が重要であるという意識が生産者にも浸透してきている。農林事務所は令和５年度も引き続き、実証農家に助言等を行い、新たな防除技術の導入普及に取り組んでいく。

（園芸産地支援第二係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲　水田農業の担い手へ今後の水稲管理等を指導

８月４日、ＪＡぎふ水田農業担い手連絡協議会の研究交流会が長良川国際会議場で開催され、担い手農家・集落営農組織等関係者約200 名が参加した。

当日は農林事務所、県農政部スマート農業推進室、ＪＡ全農岐阜、ＪＡぎふの担当者が講師となり、米穀に関する生産技術や流通動向、スマート農業などについて情報提供が行われた。農林事務所は、令和５年産水稲の生育経過と今後の栽培管理、化学肥料低減技術について説明するとともに、小麦「タマイズミ」が令和７年秋播きから「タマイズミＲ」に切り替わる予定について周知した。出席者は、発生が多いと注意報が発表された斑点米カメムシの情報に関心を寄せるなど、熱心に聞き入っていた。

【研究交流会における説明】

今後、農林事務所では水稲の適期刈取り時期の指導を行い、令和５年産米の単収および品質の向上を支援していく。

（地域支援第三係）

地域資源を活かした農村づくり

■ＪＡぎふブロッコリー生産連絡協議会　秋冬ブロッコリーの育苗・定植準備作業が進む

ブロッコリーは、小～中規模栽培の生産者が導入しやすい露地野菜品目として、岐阜地域で栽培面積が増えている品目であり、令和５年産秋冬ブロッコリーの栽培面積は11ha が見込まれている。

育苗は、生産者自らが播種から育苗まで行う形式に加えて、生産者が定植準備作業に専念できるよう、ＪＡぎふで播種作業を行い、委託農家で育苗されて、生産者に配布される形式が増加している。また、定植作業はセル成型苗による機械移植の普及により大幅な省力化が図られており、本年は約3,600 枚のセル苗の播種作業が進行中で、作業は終盤を迎えている。

【育苗中のブロッコリー苗】

農林事務所では、機械移植に適した良質苗の安定供給を図るため、育苗中の生育調査や栽培管理指導を行うとともに、育苗と同時進行で行われるほ場準備についても、排水対策で明渠の整備や弾丸暗渠などの実施について現地指導を進めている。今後も栽培者講習会等を開催し、安定生産や産地拡大を支援していく。

（地域支援第一係）